

2026年度(令和8年度)学校評価自己評価表

城南中学校区	校番 38	福山市立多治米学校
最終更新日	2026年(令和8年)4月17日	

I 福山市

めざす姿	すべてのこどもたちが、自分自身の成長を実感できる学校教育の実現
------	---------------------------------

II 中学校区

前年度学校運営協議会(学校関係者評価)の主な内容 ・こども達の主体性や多様性を表現する場が設定されており、教職員のサポートが適切に行われている。 ・生徒自身が考え、決めて、選ぶことを大切にしていることが伝わる。 ・学校と家庭、地域と家庭のつながりに課題がある。	児童生徒の現状 ・「自ら考え、決めて、選ぶ」ことが多い児童生徒に定着している。 ・知識、技能の定着に課題がある。 ・授業への姿勢や、家庭での過ごし方など、学習基盤になる部分の改善が求められる。	育成する 資質・能力 めざすこども像 (義務教育修了時の姿) 中学校区として 統一した取組等	・自己を認識する力 ・自分の人生を選択する力 ・表現する力 ・自分が打ち込めることを見つけ、目標に向かって一生懸命取り組む児童生徒の育成 ・地域から学び、社会に貢献する児童生徒の育成 ・学習指導要領に立ち返り、知識・技能の定着にこだわった授業づくりを各学校で実践する。 ・総合的な学習の時間や、特別活動を中心として地域と協働した教育内容を実践する。
---	---	---	--

III 自校

学校教育目標 自ら考え学び合い 挑戦し続ける子

現 状 <児童生徒> ・多くの児童が「学校が楽しい」と感じ、授業中に言葉の意味を考えながら学習を進めている。(児童アンケート92%) ・勉強の計画を立てたり、振り返り・見直しをもって学習を進めたりすることに課題がある。 ・自分が住んでいる地域が好きだと感じている児童は多いが、実際に地域の方と交流する機会は少ない。(児童アンケート92%、28%) <授業> ・全国学力・学習状況調査の結果から見てきた全ての教科等における学習の基盤である数や言葉にこだわった授業づくりを行っている。 ・授業や様々な教育活動に「書く活動」を取り入れ、書くことへの意欲を高めている。 ・学習内容の定着を図るために、繰り返しによる分散学習機会を充実させる必要がある。

育成する 資質・能力	・自己理解力 ・自己選択、自己決定力 ・表現する力
めざす こども像	・自分が興味・関心のあることや自分のよさ、課題など、自分のことが分かるこども ・自分の思いや考えをもとに、選択したり、決定したりするなど、主体的に行動できるこども ・試行錯誤しながら、粘り強くチャレンジすることも ・自分の思いや考えを、自分に合った方法で表現できるこども
研究	テーマ こどもとともに創り出す「深い学び」の創造～1人1人の学びを促す教師の役割～ 内容等 ○授業づくり…学習指導要領をもとに学ぶべき内容、育むべき資質・能力の明確化 ○授業…児童1人1人が「わかった」「できた」と実感できる授業 ○学力定着基盤づくり…教育活動を通して、基礎学力の定着
めざす授業の姿	・付きたい力を明確にして一人一人に確実に力をつける授業 ・「わからなかったことがわかるようになった」「できなかったことができるようになった」と実感できる授業 ・体験的な学びのある授業 ・自分の考えをもって友達と交流することで考えを深めていく授業

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)			
							□指標に係る 取組状況	プロセス 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	プロセス 評価	達成 評価	総合 評価
2	主体的・対話的に共に学び合う力の育成	★	継続	・「わからなかったことがわかるようになった」「できなかったことができたようになった」と実感できる授業をこどもと共に創る教職員を育成する。	①学習指導要領をもとに学ぶべき内容を明確にしたり、児童がつまずくポイントや教師児童ともにこだわるべき言葉や数について明らかにしたりする。 ②確かな「見通し」と丁寧な「見取り」を意識し、帯タイムや適応問題等を通して、授業改善を図る。	①児童アンケート 「わからなかったことがわかるようになったり、できなかったことができるようになったりしましたか」 肯定的回答80%以上 ①教職員アンケート 「児童のつまずきを意識し、授業改善しているか」 肯定的回答80%以上 ②教職員アンケート 「ぐんぐんタイムに確実に取り組み、評価テストを行ったか」 肯定的回答80%以上 ②標準学力調査(2~5年) 単元末知識技能(1・6年) 40%未満の児童を5ポイント増やす。								
2	自分や友達を大切に作る児童の育成		継続	・児童自らが、気づき、考え、友達との関わりを大切に作る児童を育成する。 (学級活動・児童会活動)	①各委員会で児童が主体となり、友達との関わりの中で委員会活動を進める。 ②学級活動や休憩時間に児童同士の関わりをもつ場を2週間に1回以上設定する。 ③学級活動等の時間を中心に、一人一人のよさを認め合える時間・場を設定する。	①児童アンケート 「友達を大切にしている」 肯定的回答80%以上 ②児童アンケート 「自分にはよいところがある」 肯定的回答80%以上 ③教職員アンケート 「学級活動・委員会活動等で児童の成長や友達との関わりを認めている」 肯定的回答80%以上								

2	自分の心や体に関心を持ち、運動したり生活習慣を見直したりする児童の育成	継続	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の生活や体力を振り返り、自己の課題について改善しようとする児童を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①あらゆる運動に親しむ機会を保障するための取組を2ヶ月に1回以上行う。 ②児童が運動の習慣化を意識する取組として、学期に1回、運動強化週間を設ける。 ③児童の生活習慣の実態を把握し、給食指導やミニ保健等を活用して生活習慣に関する指導を学期に1回は実施する。 ④学期に1回強化週間を設け、自己の生活習慣について振り返りを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ①児童アンケート「平日週3日以上、運動を楽しんでいる」肯定的回答 80%以上 ②委員会活動で児童が運動に親しむ場を学期に1回以上設定する。 ③児童アンケート「生活習慣7つの目標のうち、保健・食に関する3つの項目を2つ以上達成した」肯定的回答 80%以上 ④学期に1回以上、栄養教諭、養護教諭と連携した指導を実施する。 						
3	教職員が健康で、自らの個性を発揮し、笑顔で勤務できる学校の実現	見直し	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の業務の適正、健康確保を図り、授業の質を高める。 ・自らの「好き」や「強み」を理解し、自ら目標を立て挑戦する教職員を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①業務内容、健康状態について、調査をしたり改善策を考えたりして、授業準備の時間を確保する。 ②自分の好きや強み「One Smile」を教職員で共有し、それぞれの強みが組織の強みとなるよう研修を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①在校時間から勤務時間をのぞいた時間が年間360時間以内の教職員を60%以上 ②教職員アンケート「One Smileを自分の好き・強みとして意識している」肯定的回答 80%以上 						

[プロセス評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

[達成評価の評価基準]

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

[総合評価の評価基準]

評点	評価基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。